

<再評価>

事業名 (箇所名)	総合流域防災事業(福井川)		担当課	河川整備課		事業 主体	徳島県			
実施箇所	徳島県阿南市福井町									
該当基準	整備計画策定後一定期間(5年間)が経過している事業									
事業諸元	全体計画延長 L=6,500m、(築堤V=100,100m ³ 、河道掘削V=448,100m ³ 、護岸L=12,240m、橋梁等)									
事業期間	昭和56年度～令和17年度									
総事業費(億円)	100.0億円			残事業費(億円)	30.0億円					
目的・必要性	<p><解決すべき課題・背景> 過去の浸水実績 ①被災頻度: H10 5月豪雨(床下56棟,床上3棟),H15 7月豪雨(床下96棟、床上49棟),H20 4月豪雨(床下79棟,床上2棟),H20 6月豪雨(床下56棟,床上7棟)H26 台風12号(床下49棟,床上30棟) ②最大浸水戸数 :145戸[H15(7月豪雨)] ③最大農地浸水面積:165.3ha[H20(4月豪雨)]</p> <p>・福井川流域は8割近くが山地であり、福井川沿いにある平地に集落が形成されている。そのため、台風や前線に伴う豪雨により洪水が発生した場合甚大な水害の被害を受ける。 ・平成26年台風12号では、床下49棟、床上30棟などの甚大な浸水被害を被っており、河川改修を計画的に進め、流下能力の向上を図る必要がある。</p> <p><達成すべき目標> ・河川整備計画目標規模(年超過確率1/50)の洪水を安全に流下させる。</p>									
便益の主な根拠	浸水軽減戸数:200戸 浸水軽減面積:103ha									
事業全体の投資効率性	基準年度		令和2年度							
	B:総便益(億円)	660.0	C:総費用(億円)	195.7	B/C	3.4	B-C	464.3	EIRR(%)	7.7
残事業の投資効率性	B:総便益(億円)	51.8	C:総費用(億円)	27.6	B/C	1.9				
感度分析			残事業(B/C)		全体事業(B/C)					
	残事業費(+10%~-10%)		1.7	~	2.1	3.3		~ 3.4		
	残工期(+10%~-10%)		1.8	~	1.9	3.4		~ 3.4		
	資産(+10%~-10%)		2.1	~	1.7	3.7		~ 3.0		
事業の効果等	<p>・河川整備計画目標規模の洪水に対して、浸水家屋の200戸が解消され、氾濫面積約102haが軽減される。 ・また事業実施前には、災害時要援護者263人、最大孤立者数518人、電力停止による影響人口469人の人的被害が想定されているが、事業実施によりこれらの解消が見込まれる。 ・想定最大クラスの降雨による浸水想定を公表済(平成31年1月)であり、住民の水害リスク意識向上を図っている。</p>									
社会経済情勢等の変化	<p>地域の協力体制: 事業促進要望が強く、地域の協力体制は良好である。 地域の事業に対する社会的評価: 近年にも浸水被害が発生しており、地元からの期待が高まっている。</p>									
事業の進捗状況	・S56年度より事業に着手し、令和元年度末で進捗率は70%(事業費ベース)である。									
事業の進捗の見込み	・古毛橋までの用地は完了しており、今後の事業進捗に大きな支障はない。									
コスト縮減や代替案立案等の可能性	各事業の設計段階では比較検討を行い、施工段階では掘削土等の有効活用をすることでコスト縮減を図る。									
対応方針(案)	継続									
対応方針理由(案)	近年でもH26年台風21号による浸水被害を受けており、これからも河川改修を行い、被害軽減に努める必要がある。									
その他										